



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 父兄会秋季部会が開催されました

歯学部長 宮崎 隆

本学では毎年6月に父兄会総会を開催し、当該年度の事業計画



と予算案を承認しています。秋には、1年生のご父兄・ご父母を対象にした父兄会秋季部会富士吉田教育部会と、2年生以上を対象の父兄会秋季部会を開催しています。平成25年度の富士吉田教育部会は去る9月28日に開催されました。そして父兄会秋季部会は、去る10月19日午後1時から各学部に分かれて開催されました。歯学部は全体会を4号館6階600号室で開催しました。

今年の夏休み中に開催された全歯体ほかのスポーツ競技大会では、バスケットボール部、サーフィン部、バドミントン部をはじめ、歯学部学生が活躍して優秀な戦績をあげました。また、10月11日から13日まで開催された旗ヶ岡祭においては、例年通り歯学部有志がラーメンの模擬店を出店して盛況でした。宮崎学部長からは学生のこのような活動を紹介して、学生が学業だけでなく課外活動にも積極的に取り組むようご父母の理解を求めました。井上教育委員長から試験の判定方法を中心に教育全般に関する説明があり、上條学生部長から通学中の事故に対する注意や学生生活全般への支援についてお話がありました。

全体会終了後、会場を移して、各指導担任との個別懇談が行われました。歯学部の出席者は231組251名で、ほぼ昨年と同数でした。指導担任制度は本学の教育システムの根幹をなすものです。歯学部においては昨年度から試験問題管理システムを導入して、試験結果について合否だけでなく、レーダーチャートを用いて得意科目や苦手科目をわかりやすく明示しています。学生は個別に指導担任から試験結果のデータを受け取り、勉学についてアドバイスを受けるようにしています。今後、指導担任を通じて、父兄会個別懇談の際に、ご父母にもできるだけわかりやすく学生の成績や、大学の教育方針ならびにカリキュラムの内容について説明をしていきたいと考えています。

最後は7号館に会場を移し、3時15分から医歯薬3学部合同の懇親会が開催されました。稲垣父兄会長の挨拶に引き続き、小口理事長から学生が充実した学生生活をおくれるように最大限の支援をしたいとの挨拶がありました。懇親会にも多数のご父母の参加があり、指導担任を交えて楽しい歓談をし、午後4時半過ぎに散会しました。

## 昭和大学ホームカミングデーが開催されました

口腔生化学講座 須澤 徹夫

第6回昭和大学ホームカミングデーが10月13日(日)、旗の台50年記念館において、旗が岡祭・いぶき祭に合わせて開催されました。好天に恵まれた中、卒業50年の医学部31回生、富士吉田で寮生活を共にした卒業25年の医学部56回生、歯学部6回生、卒業27年の薬学部19回生が招待され、約200名が参加しました。式典は、昭和大学管弦楽団の歓迎演奏に始まり、小口勝司理事長、小出良平学長、吉田文英医学部同窓会長からのご祝辞を賜った後に、卒業後の社会貢献に対して、ゴールデン表彰(卒業50年)、シルバー表彰(卒業25年)の授与が行われ、各学部の代表者に記念の盾が渡されました。招待クラスを代表して、北條稔先生(医学部31回生)からご挨拶をいただきました。宣言代表者の堀田康弘先生(歯学部6回生)に合わせて全員で昭和大学宣言を唱和し、グリークラブとともに校歌を斉唱した後、応援指導部が演舞を披露してくれました。式典に引き続いて同会場で懇親会、その後も三学部合同の同期会一次会(高輪プリンスホテル)、二次会(品川プリンスホテル)が催され、学部を超えて旧交を温めながら楽しい時間を過ごしました。最後に、片岡竜太実行委員長をはじめとする実行委員会の皆様と、早朝からご準備いただいた総務部総務課の皆様にご心から御礼を申し上げます。



## D3チーム医療と口腔医学Ⅰが実施されました

歯学教育学部門 片岡 竜太

H24年に文科省大学間連携共同教育推進事業で本学と岩手医科大学と北海道医療大学および関連歯科医師会が連携した5



e-learningの様子

年間の取組として「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」が採択されました。超高齢社会でどのような歯科医師が必要になるかを3連携校で協力して検討し、3年生の授業プログラムとして、「全身がわかる歯科医師がなぜ必要か?」「口腔乾燥症」「脳梗塞を発症した患者からチーム医療の仕組みを学ぶ」「口腔診察、検査実習」の内容を学生が主体的に取り組むe-learningとリソース講義と実習という形で、90分授業を10コマで実施しました。

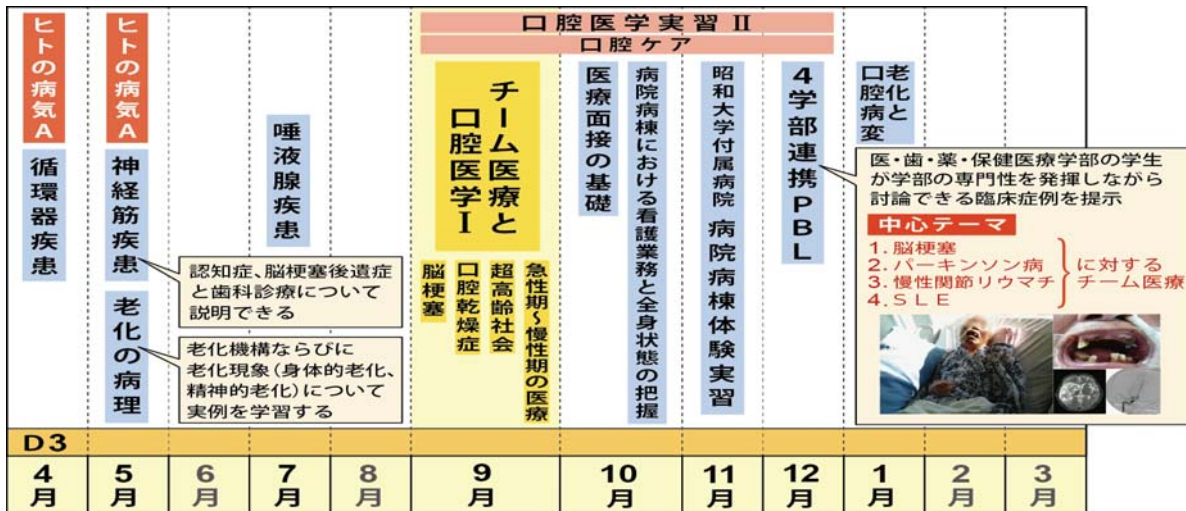
すべての授業や実習でe-learningを活用しました。

口腔乾燥症を美島教授、チーム医療などを弘中教授、実習を口腔生理、口腔病理、口腔微生物学講座で担当していただきました。授業を受け身で聞くのではなく、学生が主体的に考えながら授業に参加できた様子がアンケート結果からうかがえました。年齢構成など社会的な要因で歯科医師の仕事の内容が変化すること、それに対応して知識や技能を身につけるべきであることに多くの学生が気づきました。また、将来学部連携病棟実習で使う検査機器を用いた実習も臨床を身近に意識し、かつ学んだ知識を活かせる事を実感できる良い機会になった



実習の様子

ようです。今年度から、無線LAN環境が整い、歯科病院も含めてすべての学年でITを活用した授業を実施できるようになりました。今後さらに授業のIT化が進みますので、学生諸君にはPCを常に使えるように整備を心がけていただきたいと思います。



## 第107回歯科医師国家試験の日程が決定されました

教育委員長 井上 美津子

先頃、厚生労働省から第107回歯科医師国家試験の日程が公表されました。試験日は平成26年2月1日(土)、2日(日)の2日間で、合格者の発表は平成26年3月18日(火)となっています。昨年度は卒業式・謝恩会と合格発表が同日となってしまいましたが、今年度は卒業式・謝恩会の翌日です。現在、卒業試験Ⅰが終わり、卒業試験Ⅱ、卒業判定Ⅰを経て、平成25年11月下旬には受験の申し込みを行います。また、年明けには卒業試験Ⅲがあり、3回の卒業試験を総合評価して卒業判定Ⅱを行い、そこで卒業が決まります。ぜひとも歯学部6年生98名が全員で卒業試験に合格し、さらには歯科医師国家試験に合格できるよう頑張ってくださいと思います。

## 大学院秋期入学式が開催されました

大学院歯学研究科運営委員長 佐藤 裕二

10月1日夕方に、平成25年度大学院秋期入学式が行われました。歯学研究科4名、医学研究科7名、薬学研究科3名、保健医療学研究科16名の合計30名です。昭和大学管弦楽団の荘厳な演奏の後、学長と4研究科長はガウンをまとわれ、理事長もご臨席された厳粛な式でした。昭和大学宣言は入学者代表として、歯科放射線医学専攻の藤倉満美子さんにより執り行われました。新入生はみな、これからの4年間で素晴らしい成果を上げてくれることが期待されます。





## 歯科基礎医学会賞を受賞しました

口腔生化学講座 吉村 健太郎

このたび、第25回歯科基礎医学会賞(生化学分野)を受賞しました。受賞対象は、私が2011年にJournal of Biological Chemistryに発表した炎症性軟骨細胞死の分子メカニズム解明に関する論文です。平成25年9月21日、岡山コンベンションセンター(岡山市)で開催された第55回歯科基礎医学会学術大会・総会での授賞式に出席し、翌日にはその受賞講演を行いました。今回、歯科基礎医学会賞を受賞することができたのは口腔生化学講座をはじめ歯学部多くの先生方からご指導いただいた結果と感謝しております。今後もよりいっそう研究と教育に努力して参る所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



## JADR学術奨励賞を受賞しました

大学院3年(歯科矯正学専攻) 中山 睦子

8月にバンコクにて開催された第2回国際歯科研究学会アジア太平洋地区学術大会に参加させていただきました。そして大会期間中、同時に行われた審査により、2013年度JADR(国際歯科研究学会日本部会)学術奨励賞を受賞させていただきましたこととなりました。本賞は、JADR学術大会での研究発表活動を奨励するとともに、歯学の発展に寄与する若手研究者の育成を目的とした賞であり、このような名誉ある賞をいただき、身の引き締まる思いであります。また、様々な分野のたくさんの先生方と自身の研究についてディスカッションし、理解を深められたことは、今後の大学院生活において何よりの励みとなりました。これまで、本研究の遂行にあたりご指導、ご協力いただきました全ての先生方にこの場をお借りして感謝申し上げますとともに、これからも気を引き締めて日々精進していきたいと思っております。



## 行事予定

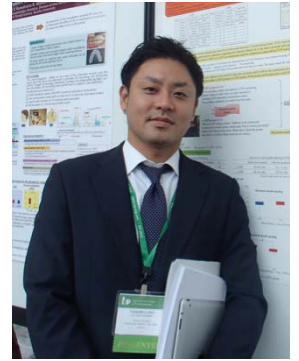
広報委員長 井上 富雄

- 11月 2日(土): 推薦・編入入試
- 11月15日(金): 創立記念日
- 11月17日(日): 歯学部進学説明会(旗の台)
- 12月 7日(土): 昭和歯学会例会
- 12月 7日(土): 大学院 I 期入試

## 第15回国際歯科補綴学会で発表しました

歯科補綴学講座 小野 康寛

9月18日~21日、イタリアのトリノで開催された第15回国際補綴歯科学会に歯科補綴学講座から私と大学院生2名が参加し発表してきました。本学会は1985年から2年毎に開催され各国を代表する補綴系学会の集合体であり補綴歯科医の研究発表・交流に寄与することを目的とした学術集会であります。トリノは冬期オリンピックが開催された街であります。滞在中は大変過ごしやすく気持ちの良い気候に恵まれました。学会会場はイタリア車 FIAT 社の工場を閉鎖し再開した複合施設内にあり、随所に車工場を思わせる跡が残っており車好きにはたまらない会場でした。私は *Effect of newly developed cognitive and behavioral therapy for tooth contacting habit* というタイトルでポスター発表を行いました。国際学会ならではのハプニングにもあいましたが、世界の補綴歯科医とディスカッションでき、また夜には想像を絶するような会場で開催されたパーティーにも参加し大変有意義な時間を過ごすことができました。当講座大学院生の大嶋先生が優秀ポスター賞を受賞するという素晴らしい結果をもって帰国の途につきました。このような貴重な機会を与えて下さった当講座教授馬場先生はじめ研究をサポートして下さいる全ての先生方に心から感謝いたします。



## 受賞

広報委員長 井上 富雄

- ・15th Meeting of the International College of Prosthodontists  
Poster Awards  
大嶋 瑠子  
(歯科補綴学講座)
- ・第55回基礎歯科医学会学術大会  
優秀ポスター発表賞  
鈴木 航(歯科補綴学講座)



## 認定医

広報委員長 井上 富雄

歯科麻酔科認定医  
中村杏里, 明石真理子(歯科麻酔学部門)

## 第二延山小学校校外授業を行いました

歯科理工学部門 堀田康弘



10月8日火曜日に昭和大学校舎の隣にある第二延山小学校の校外授業が開催されました。この校外授業は、昭和大学の医・歯・薬・看護の3学部・1学科が、それぞれの分野での特徴的なプログラムを用意し、小学5年生に様々な医療体験をしてもらう内容となっています。

歯学部では、「口の機能と歯科医体験」と題して、最初に歯科理工学部門の教員による口腔内の構造から機能までを簡単に解説し、その中でも重要な役目を担っている歯についての理解を深めてもらうと共に、一旦、その歯が虫歯になるとどのような状態になるかという授業を行いました。それに続き、歯科医師が日常的におこなう虫歯の治療体験として、タービンハンドピースを用いた顎模型上での切削体験をした後、あらかじめ窩洞形成された人工歯にコンポジットレジンを使った充填操作の実習を行いました。普段、歯学部2年生でも同じような内容の実習を行います。予備知識の全くない小学生の方が、より興味を持って実習に取り組んでおり、何人かの生徒さんからはもっと知りたいとか、もっとやってみたいという声も上がっていました。こうした取り組みの中から、将来の歯科医療を担っていく人材が現れることを期待してやみません。

## 厚生労働省での勤務を経験して

歯周病学講座 三森 香織

この度、5年2か月間に及ぶ厚生労働省への出向を完了し、歯周病学講座に復職しました。

厚生労働省には、医師・歯科医師免許を有する医系技官が、専門知識をいかして保健医療政策を担当しています。私は人事交流により、医系技官として関東信越厚生局、厚生労働省医療指導監査室・地域保健室・生活習慣病対策室、及び国立成育医療研究センターに勤務しました。そこでは、臨床研修、指導・監査、診療報酬改定、地域保健対策、健康日本21、小児がん拠点病院事業等の政策に携わっております。例えば健康日本21では、現状や課題を把握・分析し、専門家のエビデンスと見解を元に、歯・口腔の健康に関する方針を策定しました。また、東日本大震災後に

は、寝る間を惜しんで、被災地の方々の健康管理に関するガイドライン作成等に情熱を注ぎました。未曾有の大災害で被災された方々の一助になると思うと、やりがいがありました。

多岐にわたる業務において、様々な職種の方とともに国民という広い視野から政策を作り上げることは、非常に興味深かったです。今後は学びました視点や知見を活かしながら、医療現場に少しでも貢献できるよう努めて参りたいと思います。末筆ながら、このような素晴らしい機会を与えて下さった大学と宮崎学部長、山本教授ほか諸先生方、及び厚生労働省日高前歯科保健課長、上條歯科保健課長始めお世話になりました皆様に感謝申し上げます。

## スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラムで発表しました

D4 梶原 里紗

8月21日に日本歯科医師会主催のスチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラムに参加させていただきました。本大会は、全国22校の歯科大学の歯学部生が集まり、英語で自らの研究を発表し日本代表を選出するというものです。私は『咬筋運動ニューロンに対するシナプス入力の後発育変化』というテーマで発表しました。

3年生の春休みに研究入門という形で、基礎系の研究室に入り研究ができます。私は、この時に口腔生理学講座に入り、先生方のご指導のもと、顎運動を調節する神経細胞について研究をしました。大会に参加することが決まってからは、毎週研究室に通い、発表に向け準備に励みました。

人生で初めての研究発表を英語で行うことは、帰国子女でない私にとって、非常に苦労しましたが、やりきった達成感は未だかつてない喜びとして返ってきました。大会に至るまでや大会を通して、研究を行い考えることの面白さ、他者にどうしたら研究内容をわかりやすく伝えることができるのかなど、学生では考えられないようなことを学ぶことができました。今回の経験は、今後の人生の大きな第1歩であると確信しています。4年生の夏休みは一生忘れることができません。

貴重な経験をさせてくださった、井上富雄教授・中村史朗先生・望月文子先生、また多くの先生方に心より感謝申し上げます。

## 編集後記 口腔生理学講座 中山 希世美

今月もお忙しい中、原稿を執筆下さいました皆様に心より感謝申し上げます。